

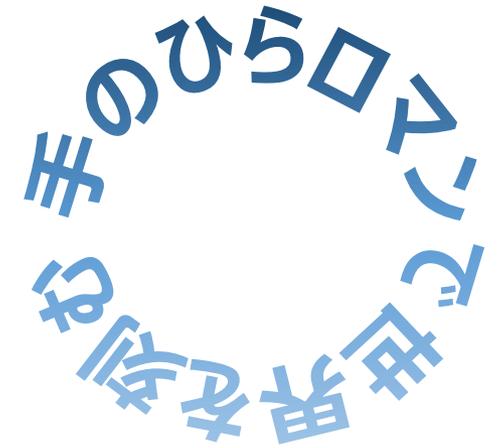
世界のひらく
N
手を知りな

日本精密株式会社

CODE : 7771

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

2024年11月22日



2025年3月期 第2四半期 決算概況

2025年3月期 第2四半期 決算のポイント

- ① 受注量に応じた機動的な生産体制作りが功を奏し、売上総利益率、営業利益率が改善。
- ② 円高による為替差損261百万円が発生したため経常赤字を計上。

単位：百万円	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	増減額	増減率
売上高	3,162	3,686	524	16.6%
売上総利益	637	836	198	31.1%
売上総利益率	20.2%	22.7%	2.5P	0
販管費	593	607	13	2.3%
販管費比率	18.8%	16.5%	-2.3P	0
営業利益	43	228	184	419.6%
営業利益率	1.4%	6.2%	4.8P	0
経常利益	314	-72	-387	-
経常利益率	9.9%	-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	257	-99	-357	-
四半期純利益率	8.1%	-	-	-

生産体制構築に向け設備投資を実施

環境保護



2025年2月竣工予定

【排水処理設備の整備】

加工工程で発生する排水を浄水化

環境に優しいことに加え、対応可能品目も拡大

生産性向上

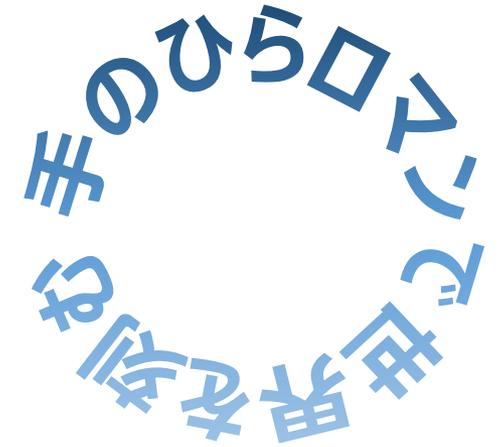


【サーボプレス機の導入】

金属加工工程の一部を完全自動化

作業効率が大幅に改善

大幅な原価低減



セグメント別概況・事業方針

セグメント別概況：時計部門 ①

売上高

2,750百万円

対前期比

+23.0%

セグメント利益

162百万円

対前期比

+183百万円

受注高

2,671百万円

対前期比

+8.5%

受注残高

505百万円

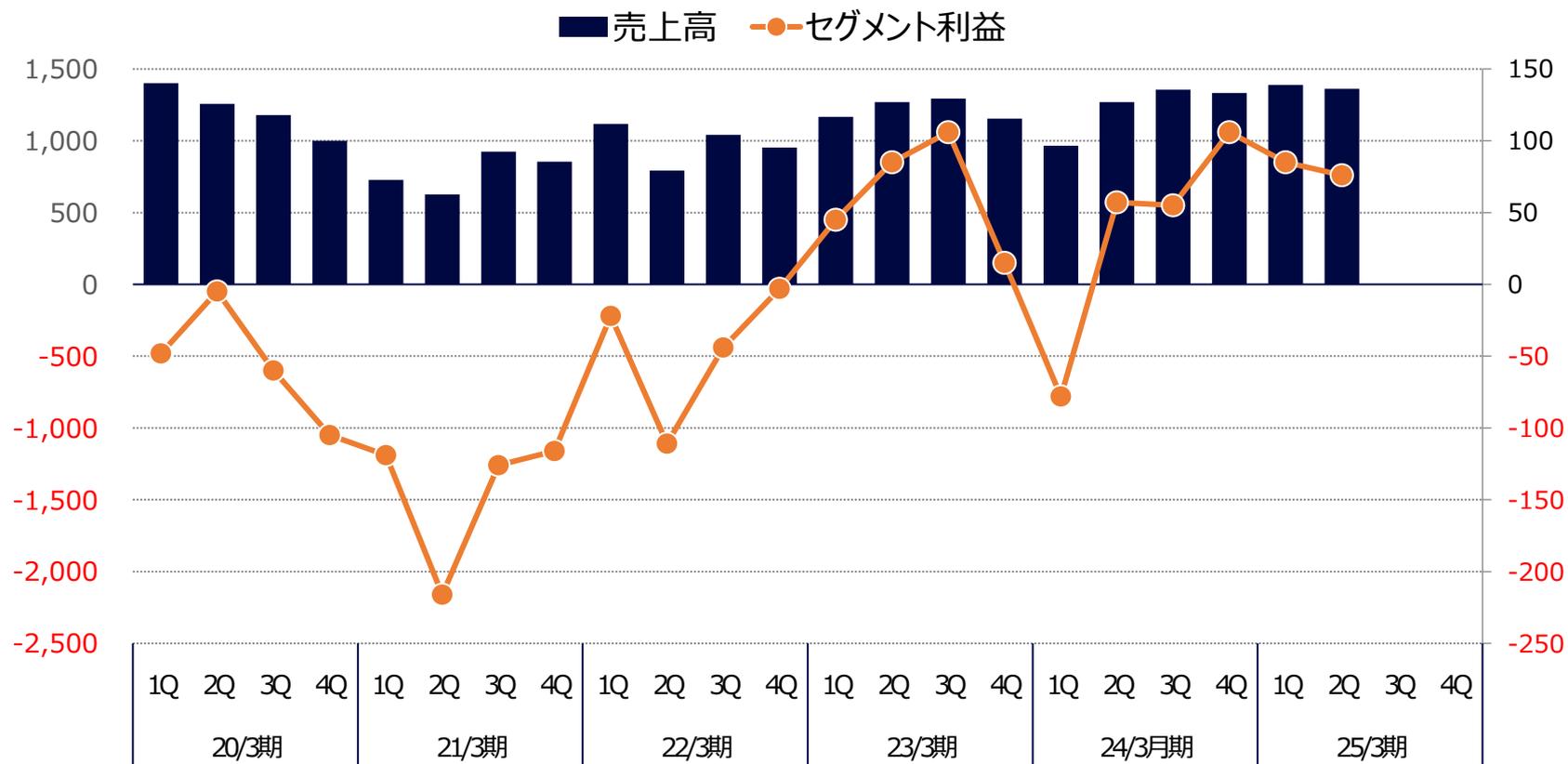
対前期比

△9.6%

セグメント別概況：時計部門 ②

取引先の在庫調整が一巡。生産体制再構築により利益率も安定

売上高・セグメント利益（右目盛り） 四半期推移

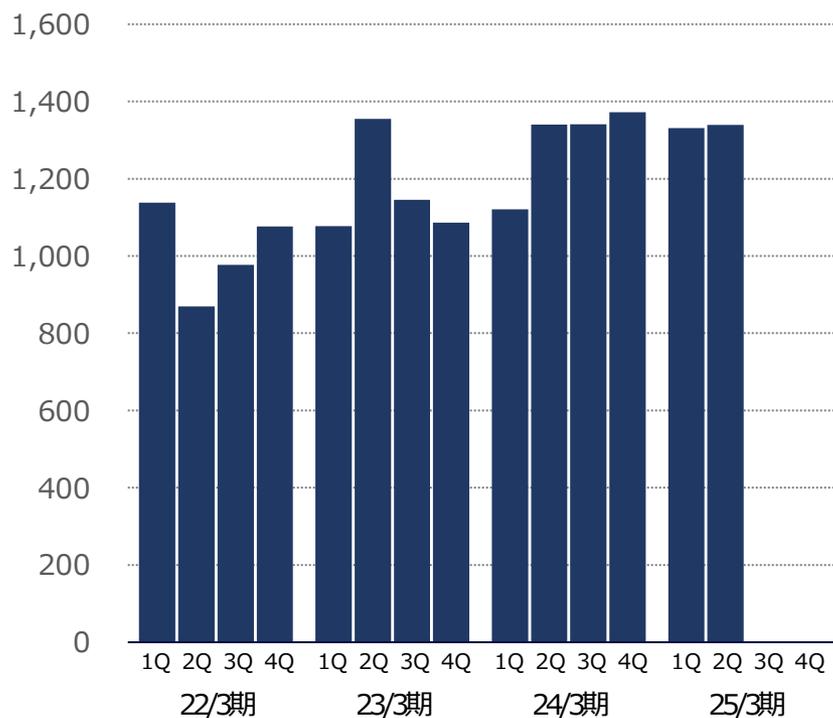


単位：百万円

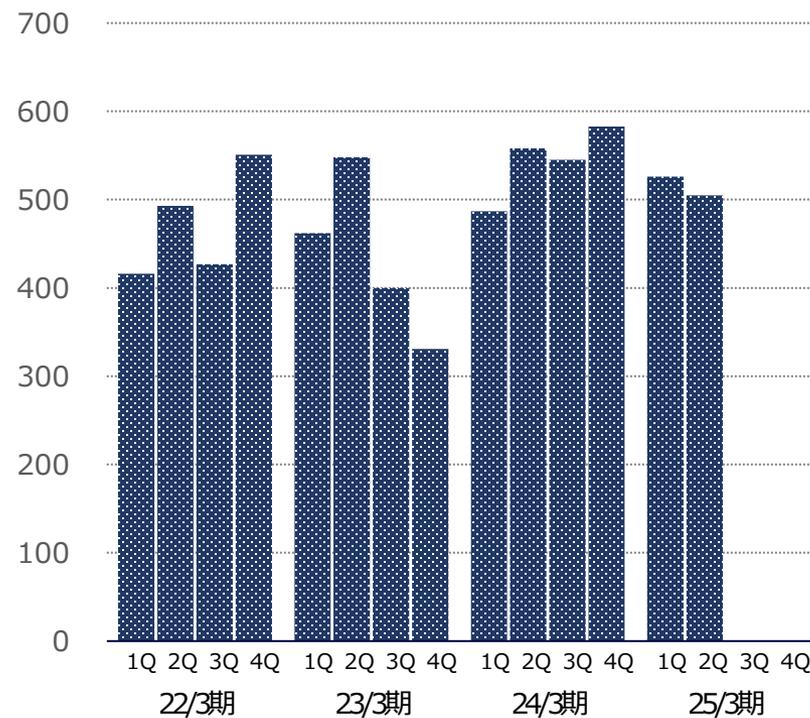
セグメント別概況：時計部門 ③

受注は前期から引き続き高い水準を維持

受注高四半期推移



受注残高推移



単位：百万円

セグメント別概況：メガネフレーム部門 ①

売上高

439百万円

対前期比

△**6.9%**

セグメント利益

8百万円

対前期比

△**70.8%**

受注高

406百万円

対前期比

△**11.8%**

受注残高

244百万円

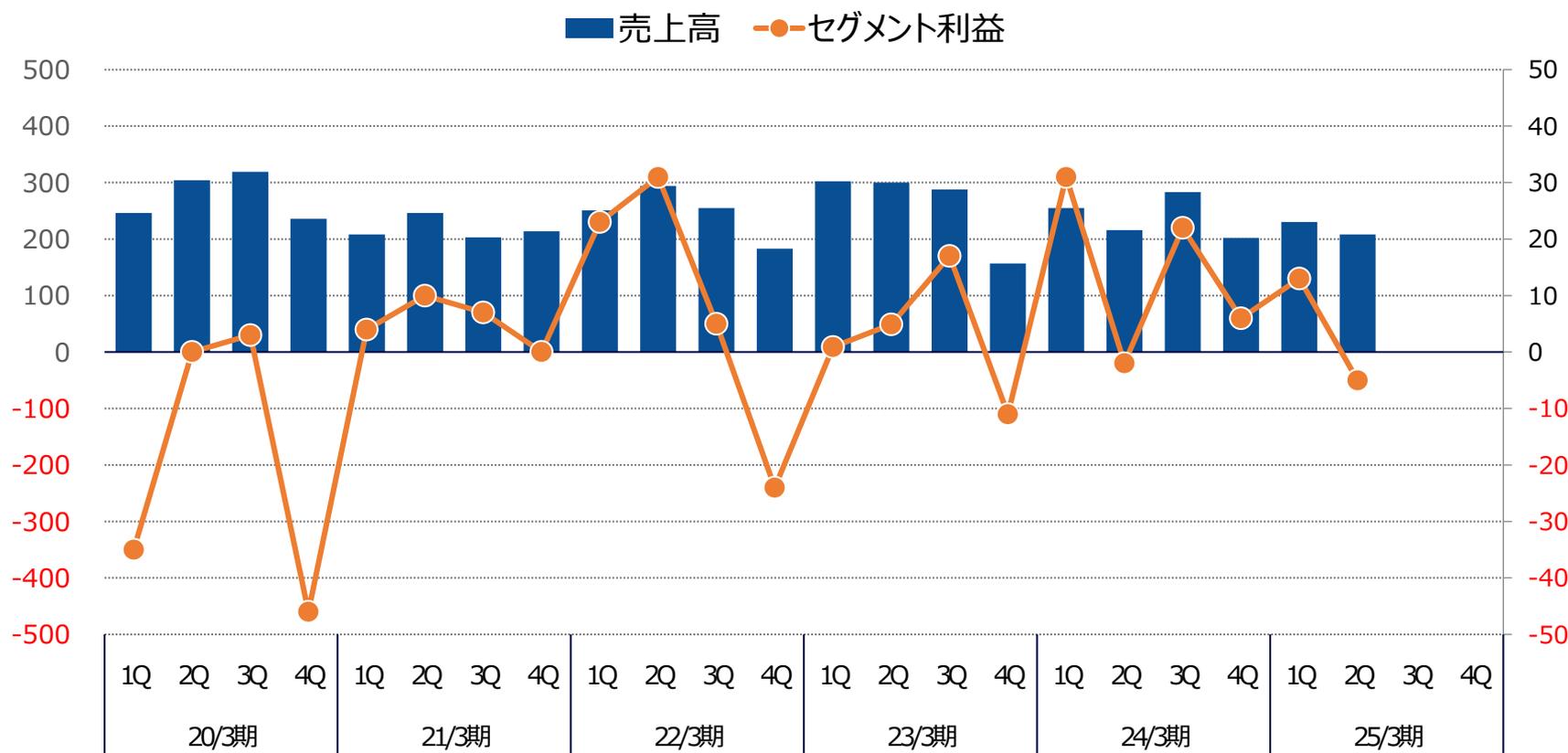
対前期比

△**10.6%**

セグメント別概況：メガネフレーム部門 ②

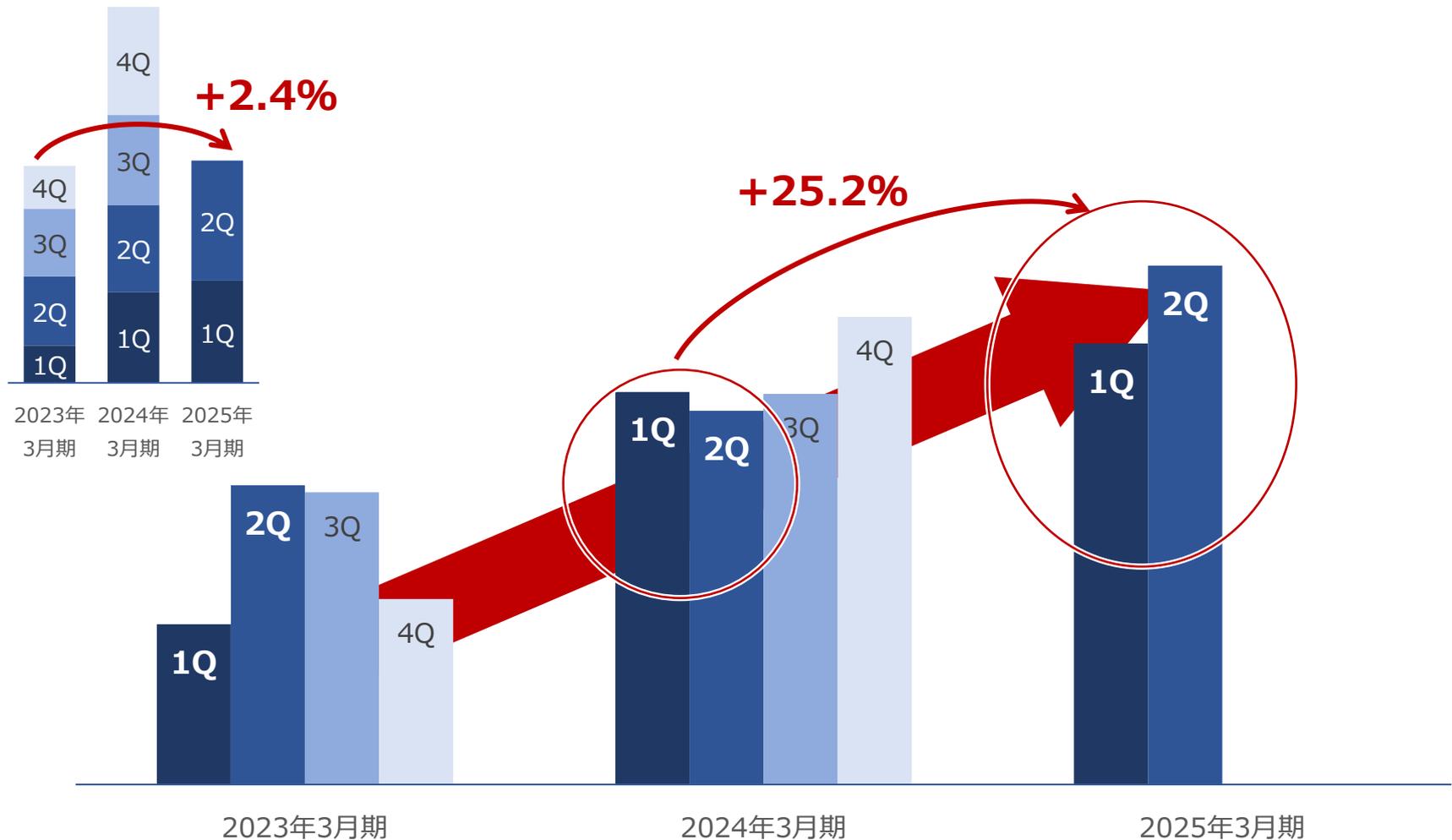
新製品の投入がズレ込みスタートで出遅れ。下期で挽回を図る

売上高・セグメント利益（右目盛り） 四半期推移



単位：百万円

前期より注力するYohji Yamamotoは好調



セグメント別概況：釣具・応用品部門 ①

売上高

496百万円

対前期比

+9.1%

セグメント利益

68百万円

対前期比

+108.2%

受注高

448百万円

対前期比

+3.0%

受注残高

182百万円

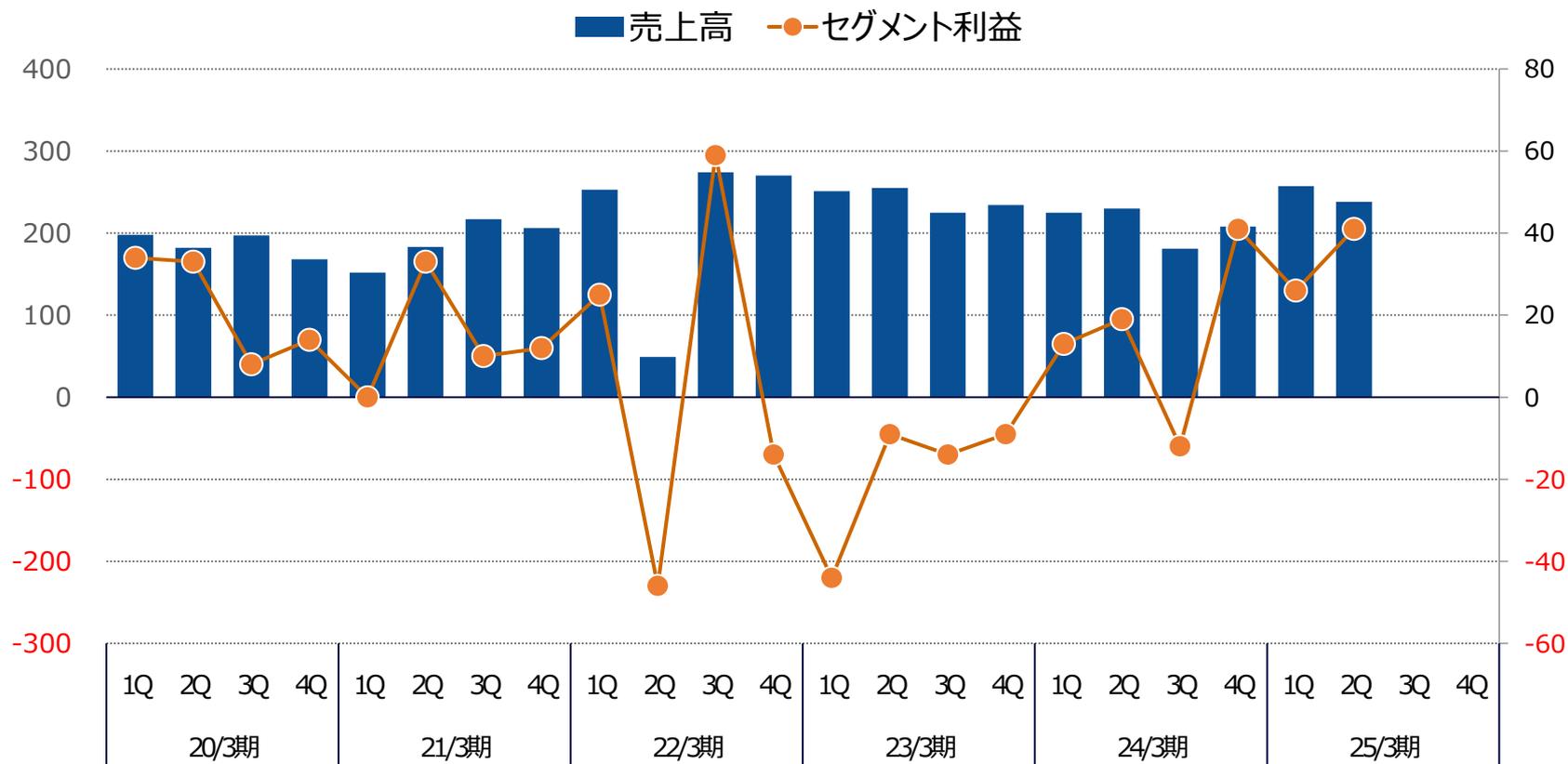
対前期比

+24.3%

セグメント別概況：釣具・応用品部門 ②

コロナ禍を終え生産体制正常化。黒字定着へ

売上高・セグメント利益（右目盛り） 四半期推移

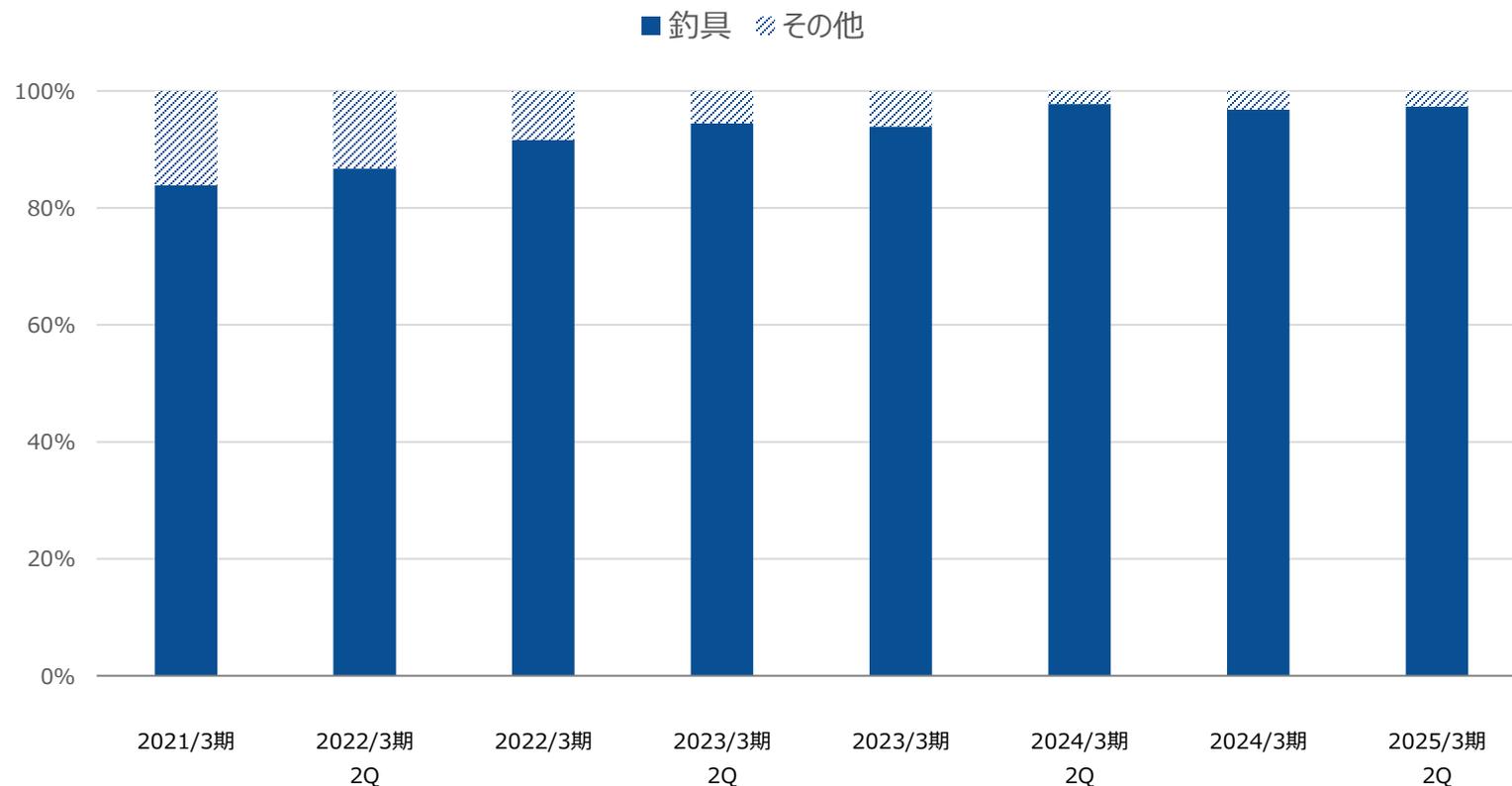


単位：百万円

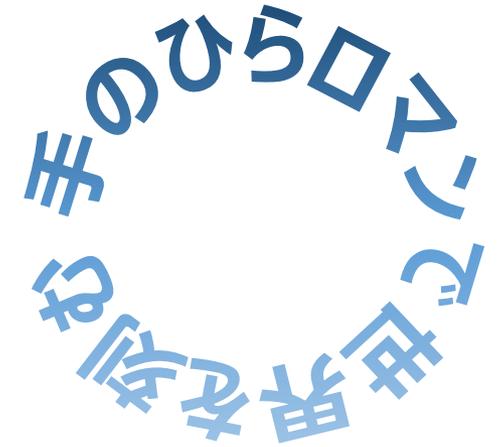
釣具・応用品部門事業方針

釣具市場の拡大は継続見込み。釣具以外の応用品開拓が急務

【釣具、釣具以外の売上構成比】



単位：百万円



2025年3月期通期計画

下期の環境認識

□ 国内外の選挙結果を受け、世界経済、金融・為替の動向に注視が必要

➤ コストプッシュ型インフレによる原材料高が継続⇒原価UP要因 

➤ 金利差縮小観測の後退

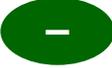
⇒円安持続からインバウンド消費は持続需要増加要因 

□ NEXT CHINAの流れは加速。ZERO Chinaへ

➤ ASEANにおけるモノづくり需要の拡大

需要増加要因 

➤ ASEANにおける労働力需要の増大

人件費UP要因 

□ コロナ禍による特殊要因（特需、買控、操業停止）の影響の収束

➤ 工場運営の安定（生産計画、人員計画）

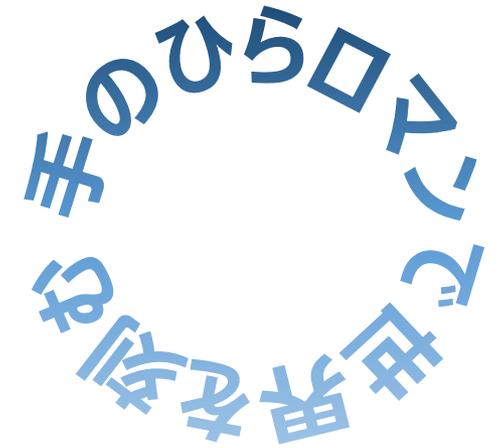
販管費安定要因 



来期の飛躍に向け、生産体制、営業体制整備最終段階

全社	期初計画達成に向け、営業強化。 新たに構築した機動的な生産体制の運用による利益体質の定着。
時計	各メーカーの生産拠点脱中国の動きを取り込むための体制強化、自動化・半自動化の推進。
メガネフレーム	新製品投入により上期の遅れを挽回。海外営業強化。
釣具・応用品	釣具における金属採用パーツの拡大。釣具以外の新分野開拓営業の強化。

単位：百万円	2025年3月期 計画	2024年3月期 実績	増減率
売上高	6,646	6,728	△1.2%
営業利益	170	252	△32.6%
経常利益	129	448	△71.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	113	390	△71.1%

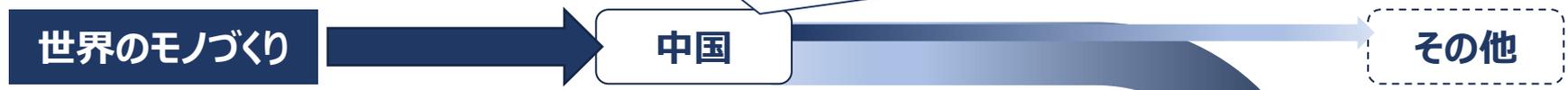


Appendix

外部環境認識：『NEXT China』から『ZERO China』へ

世界からモノづくり技術が中国へ

金属製時計バンド：世界生産の約8割

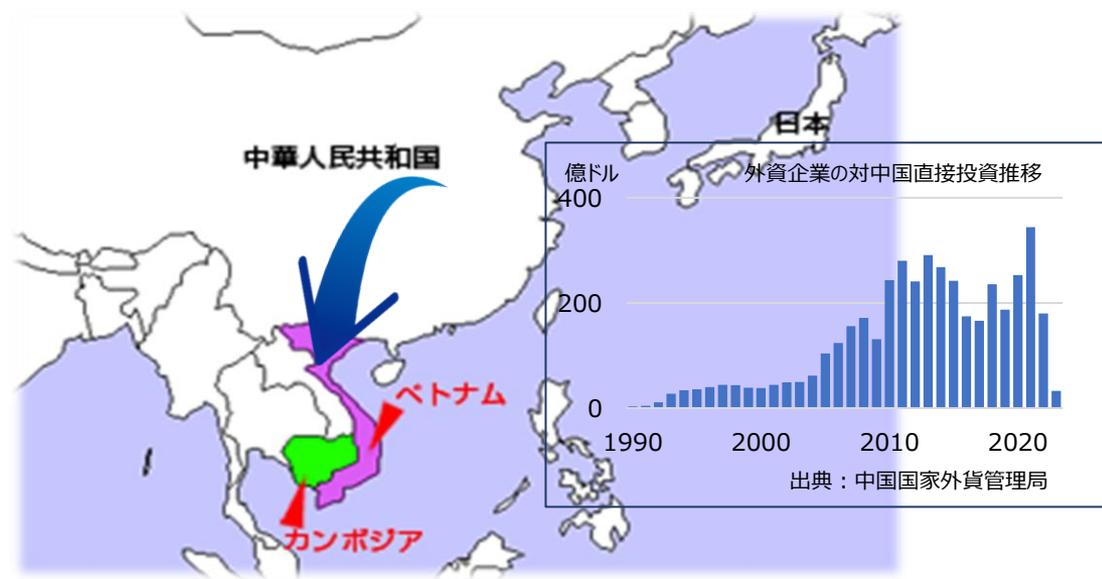


一人っ子政策+経済成長による若者の職人離れ

廃業・倒産による“生産体制崩れ”リスク顕在化

大手メーカーを中心に脱中国の動きが急務

景気減速や過当競争、改正反スパイ法など不透明な規制が外資企業の遠心力に



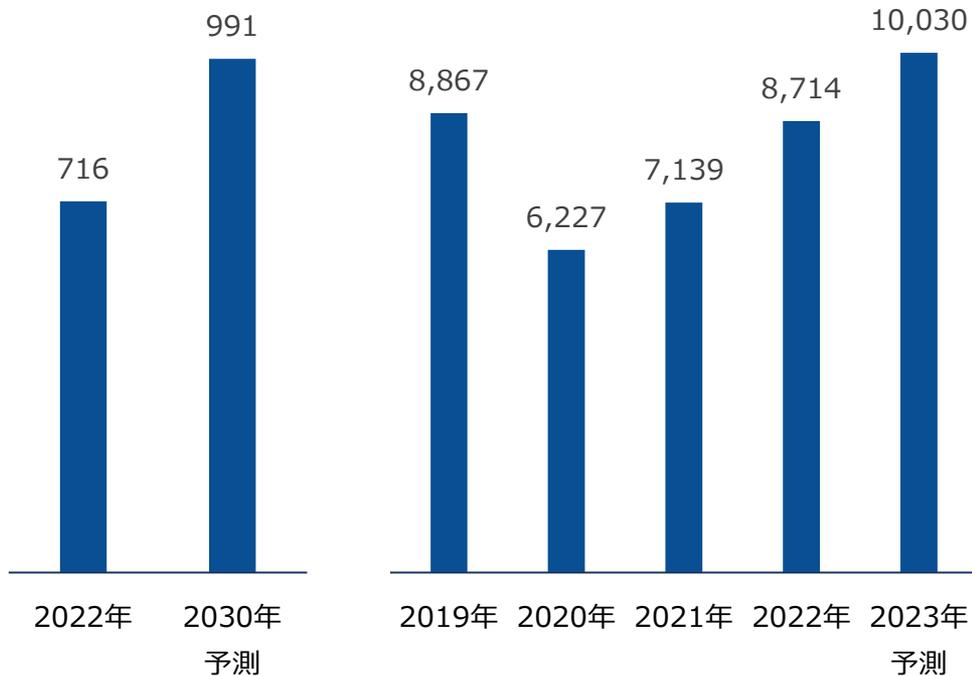
世界のモノづくりを中国から受け入れる体制を構築

時計部門市場動向

国内大手メーカーの計画はやや保守的

【世界腕時計市場予測】

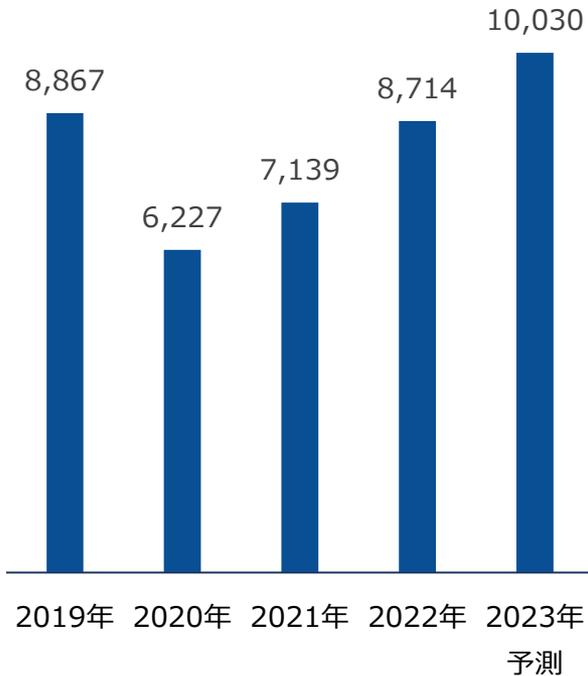
単位：億ドル



出典：DataM Intelligence「Global Watch Market - 2023-2030」

【国内腕時計市場動向】

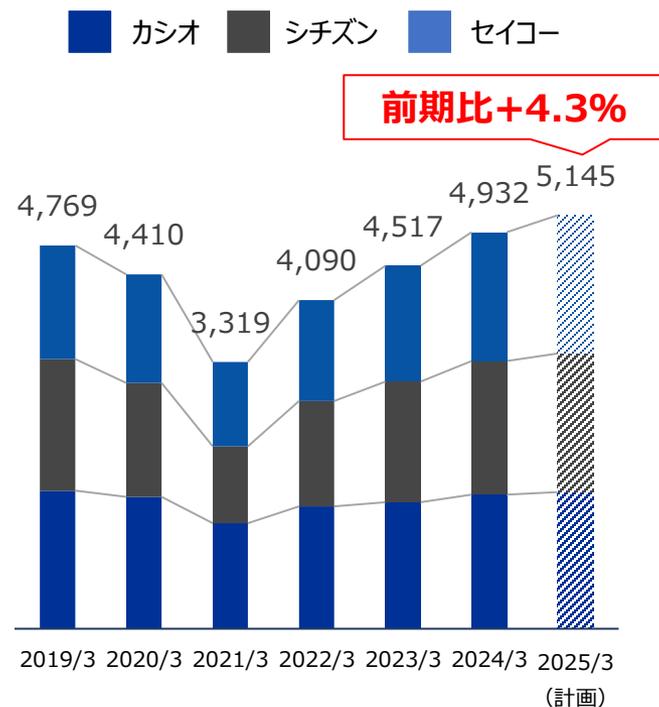
単位：百万円



出典：矢野経済研究所「国内時計市場に関する調査2024」

【国内主要時計メーカー 時計事業売上高推移】

単位：百万円

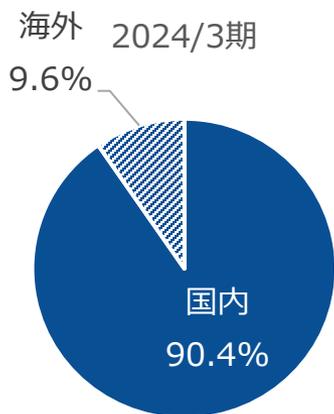


出所：各社決算説明資料より当社作成

メガネフレーム部門市場動向

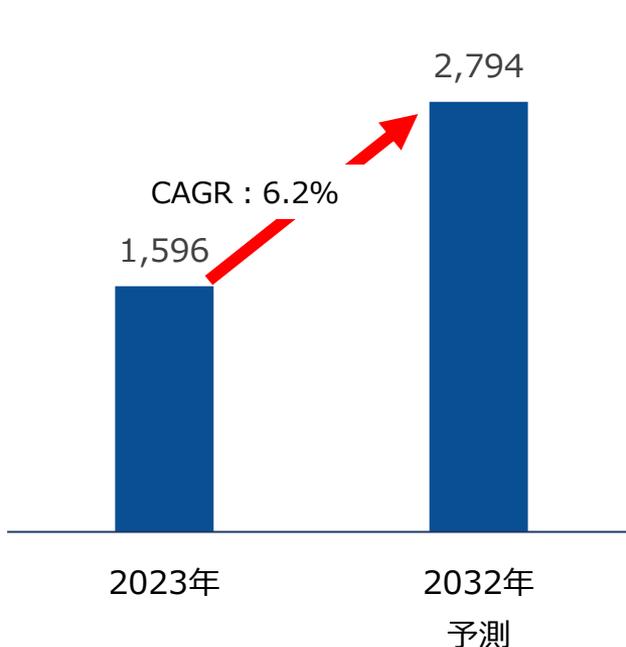
構造改革を優先し抑制していた海外営業を再開

【当社売上構成比】



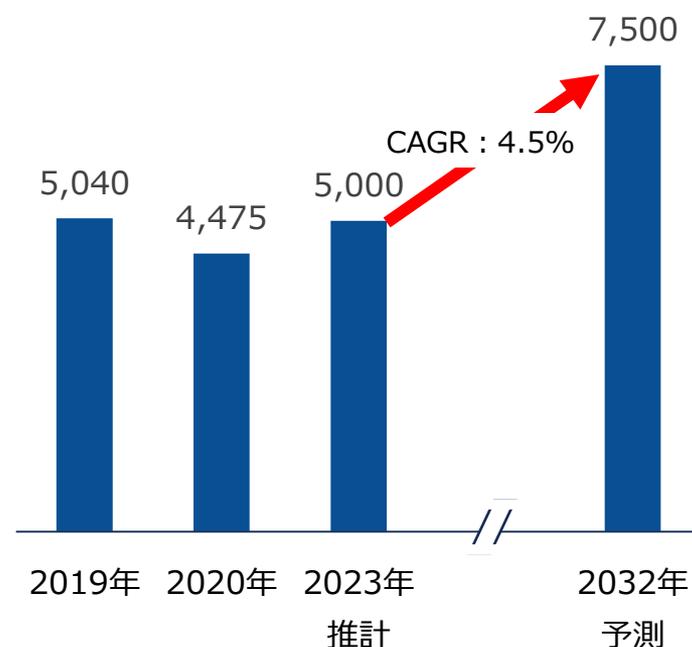
【世界アイウェア市場規模予測】

単位：億ドル



【国内アイウェア市場規模予測】

単位：億円



出典：IMARC Group「Eyewear Market Report by Product (Spectacles, Sunglasses, Contact Lenses), Gender (Men, Women, Unisex), Distribution Channel (Optical Stores, Independent Brand Showrooms, Online Stores, Retail Stores), and Region 2024-2032」

出典：矢野経済研究所「2023 アイウェアブランドマーケット」、IMARCグループ「日本の眼鏡市場レポート:製品別(眼鏡、サングラス、コンタクトレンズ)、性別別(男性、女性、ユニセックス)、流通チャネル別(眼鏡店、独立系ブランドショールーム、オンラインストア、小売店)、地域別2024-2032年」から当社推計

コーポレートスローガン

『手のひらロマンで世界を刻む』

手のひらロマンで世界を刻む

キャッチフレーズ

『肌に優しい金属加工技術』

肌に優しい金属加工技術



日本精密株式会社

手のひらロマンで世界を刻む

本資料は、今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料は注記のない限り2024年9月30日現在の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようにお願いいたします。